NLBC 家畜衛生通信　第8号　令和 3 年 10 月
執筆担当：兵庫牧場　業務課

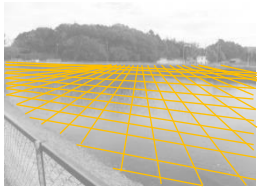
兵庫牧場における野鳥・野生動物対策のご紹介

家畜改良センター兵庫牧場では、約 2 万羽の肉用種鶏を飼養しています。これらの種鶏を守る為に、牧場内に病原体が入らないよう、入場する人・車・モノの制限を厳しく行うとともに、入場する際には着替えや消毒等を行うようにし、病原体の侵入リスクを低減しています。

人・車・モノは入場する時間や場所を把握することが出来ますが、野鳥・野生動物はそうはいきません。そこでいつ、どこから入ってくるか分からない野鳥・野生動物に対して行っている兵庫牧場の取り組みをご紹介します。

①　防鳥テグスによる水鳥の飛来防止

兵庫牧場の西側には約 6000 m^2 の地元の農業組合が管理するため池があり、カモなどの水鳥が多くやってきます。鳥インフルエンザのシーズン（11 月～5 月）には、農業組合の了解を得て防鳥テグスを設置しています。テグスは約 50 cm 四方の格子になるように約 25 km 分を設置しました。テグスを嫌がり水鳥が近づかなくなることで、牧場への鳥インフルエンザウイルスの侵入リスクの低減が期待できます。



黄色線…テグス

②　フェンスと消石灰による野生動物対策

兵庫牧場では外周全てにフェンスを設置し、野生動物の侵入を防いでいます。また、小型の野生動物がフェンスの下を掘って侵入することへの対策として、フェンスの境には消石灰を散布しています。消石灰を嫌がり近づかない効果が期待できるとともに、万が一侵入した場合には強アルカリ性による消毒効果があります。定期的にチモールフタレイン溶液（pH の可視化剤）を霧吹きで消石灰にかけ色を確認することで、消石灰の効果（強アルカリ性の持続）の有無を確認しています。

③　センサーカメラによるフェンス内への侵入経路の特定

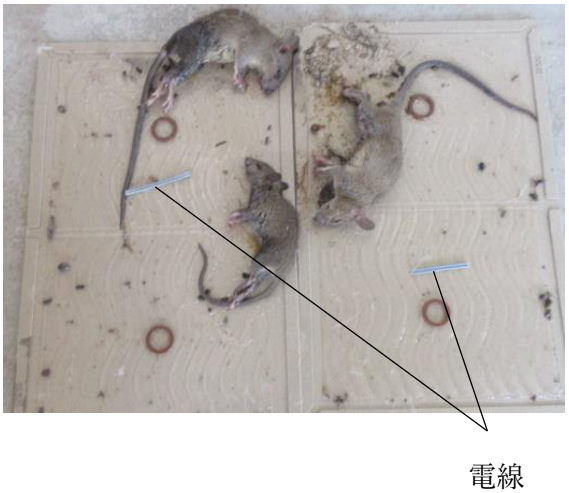
　②の対策を取っていても、フェンスの破損によって野生動物の侵入を許してしまう事があります。そこで、センサーカメラを用いて侵入の有無を確認し、侵入している場合には、カメラに映った動物たちの動きや付近の痕跡から、どこから侵入してきているかを調査しています。もし近くに侵入が疑われる場所があれば隙間を無くしたりするなど、対策を講じます。昨年度は 7 か所にカメラを設置し、フェンスを 20 か所以上補修しました。

④　防鳥ネットによる病原体の侵入防止

　空からやってくる野鳥に対しては、野鳥が鶏舎内の鶏と接触しないように防鳥ネットを張ることで鶏舎内への病原体の侵入を防いでいます。防鳥ネットも劣化しますので、特に冬季に小まめな見回りを行い、ほつれたところを修繕しています。一冬につき約 1000 か所の修繕を行っています。

⑤　粘着シートによるネズミの捕獲

　鶏舎のネズミに対しては、殺鼠剤と粘着シートを使用しています。誘引剤として電線を粘着シートの上に置くと捕獲率が上がるとの情報（養鶏の友　2021 年　5 月号）があったので試してみたところ、効果が感じられました。



（以上）